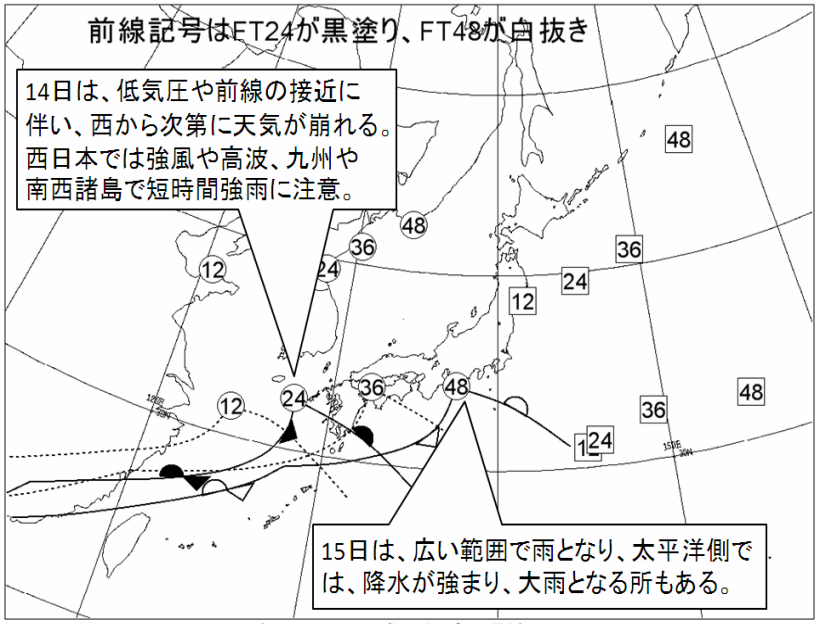
短期予報解説資料　２０１２年　５月１４日０３時４０分発表

気象庁 予報部

１．実況上の着目点

①日本付近にはリッジが進み、地上は北日本と日本の南に中心を持つ高気圧に覆われ、北日本から東日本にかけては上層雲の広がりはあるが下層雲は少ない。
②華中から東シナ海で前線帯が顕在化し、雲域が拡大している。温暖前線に相当する降水帯は明瞭で、拡大しながら九州に接近している。また、暖域内の沖縄周辺では、対流雲が発達し、発雷を検知。
③アムール川上流には寒冷渦があり、その南の 5700m 付近にもトラフが存在する。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

①東シナ海の前線帯には、14 日朝までに低気圧が発生する。この低気圧からのびる温暖前線の東進に伴い、西日本から次第に雨となり、夜には紀伊半島付近まで広がる。九州では種子島・屋久島を中心に下層暖湿気（925hPa で 336K）が流入し、短時間強雨のおそれがある。東の高気圧の影響もあって温暖前線位相の動きが遅いため降水量が多くなる点に留意。また、西日本では高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、次第に風が強まり、波が高くなる。
②500hPa5700m 付近のトラフは不明瞭で、低気圧の発達は 15 日の段階ではない。ただし、低気圧周辺には暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となり、雷を伴った短時間強雨のおそれがある。暖湿気の流入は予想が新しくなるほど南になっており、海上・海岸部に限定される可能性はある。強風や高波に関しても、同じ。
③南西諸島は、停滞前線が南下する 15 日後半から 16 日にかけて雷を伴った激しい雨が降り、大雨となるおそれがある。

３．数値予報資料解釈上の留意点

最新の GSM を基本とする。14 日の降水予想は MSM も参考に検討。

４．防災関連事項[量的予報と根拠]

①大雨ポテンシャル（06 時からの 24 時間：地点最大）九州南部 150mm、沖縄 100mm。2 項短時間強雨に注意。②波(明日まで)：九州・四国・近畿・東日本の太平洋側 3m。

５．全般気象情報発表の有無　　発表の予定はありません。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。